様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　５ 年　６ 月　８ 日現在

機関番号：３２６９３
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2020～2022
課題番号：２０Ｋ２３１７２

研究課題名（和文）慢性呼吸器疾患患者の病期移行に伴うACPを支える意思決定支援モデルの開発

研究課題名（英文）Development of Nursing decision making support model for patients with chronic respiratory disease during the transitional stage

研究代表者
河田　照絵（Kawada, Terue）

日本赤十字看護大学・看護学部・准教授

研究者番号：４０４３８２６３

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　900,000円

研究成果の概要（和文）：　本研究では、慢性呼吸器疾患患者が病期の変化や療養の変更について意思決定が求められる際に、熟練看護師がどのように意思決定を支えているのかを明らかにすることを目的とした。本研究では、文献検討と熟練看護師へのインタビュー調査を行い、看護師の支援内容として【信頼関係を築きながら日常生活にこだわって聴く】、【患者や家族が選択できる土台をつくる】、【意思決定が求められるタイミングをみはからう】、【変化する状況を見極める】、【チームとしての信頼をつなぎ、前に進む】といった支援が明らかになった。患者の生活背景や価値観を重視した関わりが患者の意思決定を支えていることが明らかになった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
2018年に厚生労働省はアドバンス・ケア・プランニングの実践・普及を明文化し、この考え方が社会に認識されるようになった。しかし、最終末期の意思決定に焦点があてられる研究が多く、非がん性疾患のように、長期にわたる経過の中で様々なタイミングで意思決定が必要となる疾患の患者への支援はあまり明らかになっていない。また、慢性疾患を持つ人への支援は看護師も長期的な関わりがある一方で、その役割は明確になっていない。本研究では、看護師は治療方針の決定のみならず、その人が望む生活を支援するための継続的な支援を行っていることが明らかになり、看護師が療養支援を行うことの重要性を示唆する結果であった。

研究成果の概要（英文）：　The purpose of this study was to reveal how expert nurses support patients with chronic respiratory diseases to make their decision at times of change in their symptoms or need to change their recuperation. Through interviews with experienced nurses, it became clear that “building a relationship of trust by listening particularly about their daily life”, “creating a basis for the patients and their families to choose”, “seeking the timing of ACP”, “ascertaining the changing situation and support” and “building trust as a team and advance” are the supports provided by the nurses. It revealed that relationship in consideration with the patients’ life background and sense of values support the patients to make their decisions.

研究分野：看護学

キーワード：慢性呼吸器疾患　Advance Care Planning　意思決定支援　熟練看護師

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

1．研究開始当初の背景

2018 年に厚生労働省はアドバンス・ケア・プランニング（以下 ACP）の実践・普及を明文化し、診療報酬に反映させ、ACP の重要性が認識されるようになった。非がん性疾患である慢性呼吸器疾患患者にとっては段階的に病期が進行し、治療やケアの変化を余儀なくされるため、各時期に ACP について医療者・家族とともに共有し、話し合うことは重要である。しかし、慢性呼吸器疾患患者に特化した ACP を支える具体的な相談支援技術･方法は明らかになっていない。

慢性呼吸器疾患患者数は増加傾向にあり、慢性閉塞性肺疾患（以下 COPD）は、世界の死亡原因の第 3 位になると予測され、日本での COPD 有病率は 8.6%（約 530 万人）と推測され（Fukuchi,2004)、2013 年に策定された健康日本 21 では生活習慣病の重症化予防策の 1 つとして掲げられた。慢性呼吸器疾患の罹病者は高齢者が多く、心疾患などの併存疾患を持つものも多く、また、明確に終末期を定義することが難しい。患者は病期の移行に伴い医療ニーズ、介護ニーズの増加に伴う様々な意思決定に迫られることから、ACP の要素を取り入れた意思決定支援が必要となる。これまで患者の療養生活や思いなどの体験を記述する研究や実態調査は数多く取り組まれ、終末期ケアや ACP への支援、意思決定支援の必要性が明らかになっているが、一方で具体的な支援方法は明文化されておらず、研究としての取り組みが必要である。

2．研究の目的

本研究では、慢性呼吸器疾患患者に対し、病期の移行に伴う療養上の意思決定を支えるための相談支援技術の開発を研究目的とする。現在、慢性疾患を取り巻く医療環境は、高齢化による患者の増加、複数の疾患を持つ患者の増加、急性期病院の機能役割の変化、地域包括ケアの拡大に伴い変化していくことが今後、予測される。そのような中、患者は自分らしく納得した生き方をするために療養の選択を求められる。慢性閉塞性肺疾患など慢性呼吸器疾患患者は病期の進行や急性増悪時に、在宅酸素療法の導入、介護保険サービスの導入、生活環境の変更、万が一の時の治療法の選択などの意思決定を迫られる。現在、非がん性疾患の終末期ケアや慢性疾患患者に向けた ACP の推奨などが研究されているものの、患者は最終末期をイメージし、平常時からの介入が難しい状況もある。そこで、本研究では慢性呼吸器疾患の熟練看護師の療養支援、相談活動の実態を明らかにすることによって、患者や家族が療養に対する意思決定する力や医療者と話し合う力の向上を見据えた看護支援技術を明らかにすることを目的とする。

3．研究の方法

本研究では(1)(2)の研究に取り組んだ。

(1)慢性呼吸器疾患患者への ACP の実践における促進要因と阻害要因に関する文献検討

慢性呼吸器疾患患者への ACP の実践における促進要因と阻害要因について、文献検討から明らかにすることを目的とした。文献検索は CINAHL、MEDLINE、PubMed を用い、ACP と Chronic Pulmonary Disease もしくは Chronic Obstructive Pulmonary disease、ILD、医学中央雑誌は ACP、呼吸がタイトルもしくはキーワードに含まれる文献を対象とした。またハンドリサーチにより収集した文献も含め、抄録を確認し、慢性呼吸器疾患もしくは COPD、ILD 患者への ACP の実践について記述がある文献を検討した。文献の検索期間は 2010～2020 年（検索日 2021 年 2 月）とした。また、ハンドリサーチで入手した文献も含めた。倫理的配慮として、文献検討の対象となった文献の著者らの著作権への配慮を行った。

(2)慢性呼吸器疾患患者への ACP や意思決定を支援している熟練看護師へのインタビュー調査

慢性呼吸器疾患患者への ACP を支援している熟練看護師が療養支援において病期の移行期に ACP に向けた支援や意思決定支援をどのように行っているかを明らかにすることを目的として、インタビュー調査を行った。研究デザインは、質的記述的デザインとした。研究参加者は、慢性呼吸器疾患患者へのケアに精通した看護師とした。研究参加者に半構造化インタビューを行い、インタビューは慢性呼吸器疾患患者の病期の移行期の関わりを想起してもらい、日々の実践で大事にしていることや意思決定をどのようにしているか、ACP を実践する上で意識していることはあるかなど自由に語ってもらった。インタビューは 1 人の参加者に対して 2 回実施した。

倫理的配慮として、研究者が所属する大学の研究倫理審査委員会の承認を得て実施した。研究参加者には、研究目的、協力内容と研究への参加は自由意思であり、辞退や中断を希望した場合でも不利益は生じないこと、個人情報の保護について、口頭及び書面で説明し、研究参加の意思を確認した。インタビューは研究参加者のプライバシーを確保して実施した。

データ分析は移行期における看護支援や意思決定支援、ACP 支援につながる内容に焦点を当てコード化し、コードの意味内容や類似点、相違点を比較検討しながら、意味の共通するまとまりからサブカテゴリ、カテゴリとして抽象化した。

4．研究成果

(1)慢性呼吸器疾患患者への ACP の実践における促進要因と阻害要因に関する文献検討

文献検索の結果、慢性呼吸器疾患患者の体験やニーズ調査や現状を明らかにした研究 4 件、医療者を対象に ACP についての意識や取り組み、障害、促進因子について明らかにした研究 7 件、ACP に関する介入研究の報告 4 件の 15 文献を分析の対象とした。

ACP を促進する要因は、『医療者が ACP の介入に意識を持つこと』『ACP の介入を受けやすいこと』『ACP に介入するスキルを医療者が身につけていること』『ACP のケアを提供するモデルがあること』『患者・家族側に ACP に関する知識や教育があること』『身体的な症状が増加したり、治療内容が変化する時期にあること』『患者・家族の感情が医療者と共有され、サポートが受けられること』が挙げられた。また、ACP の介入を阻害する要因として、『ACP や緩和ケアに対する医療者の経験や理解の不足』『経過や予後の不確かさがあること』『ACP を検討すること、話し合うことへの恐れ』『医療者のスキルが低いこと』『コミュニケーションギャップが生まれること』『ACP の関わり方のケアモデルがないこと』が明らかになった。

これらの結果から、慢性呼吸器疾患患者への ACP の介入は予後予測の不確かさがあることから介入の時期や、緩和ケア導入の時期の難しさがあり、医療者自身が ACP を実践することへの経験が少ないことも阻害要因となっている。一方で、意識を持つことや介入を促すために必要なスキル、チームでの介入など介入を促進する要因も明らかになった。また、ACP の実践には、看護師が日常的ケアの中で実践している生活背景や価値観を捉えること、チームを調整する仲介役となること、また、意思決定場面においてもコミュニケーションギャップを埋めること、思いを引き出すこと、大事にしているものに注目するといった支援が多く含まれていた。ACP の介入における看護師のあり方として、新たなスキルが必要となるものではなく、これまで日常的に行っているケアの延長上に ACP への介入があり、継続的な看護支援を実施するためには、実践者の意識や知識の向上が求められる。今後、慢性呼吸器疾患患者への ACP への介入を行うタイミングやアセスメントツールも含めた、チームとしてのケアモデルの開発と、医療者・患者・家族・取り囲む人々それぞれに対し、知識、理解、スキルの向上のための機会の提供が求められる。

(2)慢性呼吸器疾患患者への ACP や意思決定を支援している熟練看護師へのインタビュー調査

本研究では、5 名の慢性呼吸器疾患看護認定看護師にインタビューを行った。結果、【信頼関係を築きながら日常生活にこだわって聴く】、【患者や家族が選択できる土台をつくる】【ACP 介入のタイミングをみはからう】、【変化する状況を見極める】、【チームとしての信頼をつなぎ、前に進む】の 5 つのカテゴリが明らかになった。以下に本研究で明らかになった【カテゴリ】と≪サブカテゴリ≫について述べる。

【信頼関係を築きながら日常生活にこだわって聴く】では、慢性呼吸器疾患患者の療養支援において、今の生活が維持できているのかを知り、話を重ねていく中で関係性を築いていくケアを継続的に行っていることが明らかになった。サブカテゴリとして、≪話しを重ねて信頼関係を築いていく≫、≪病気の体験を紐解いていく≫、≪普段の会話や雑談から思いや言葉をひろう≫、≪生活の体験を引き出していく≫関わりが明らかになった。

【患者や家族が選択できる土台をつくる】では、看護師は状況が変化する移行期の支援は安定期から継続して【患者や家族が選択できる土台をつくる】ことをあえて ACP の支援として意識させることなく、気持ちや語りを引き出していた。サブカテゴリ―として≪患者が語ることに注目する≫、≪説明を積み重ねていく≫、≪種をまきながら聴く≫、≪一緒に揺れながら寄り添う≫という仕方で関わっていることが明らかになった。

【ACP 介入のタイミングをみはからう】では、看護師は安定期と非安定期の中で、意思決定が求められる状態のタイミングを捉えながら、変化する状況を見極めた支援をしていた。サブカテゴリ―として≪状況が変化するタイミングを捉える≫、≪躊躇しながら関わる≫、≪経験を重ねていく≫が明らかになった。

【変化する状況を見極める】では、患者の病期や症状が変化していく中で、揺らいでいく状況を予測し、その状況に目を向けながら日常ケアの延長として患者や家族に寄り添い、状況を見極めながら支援していることが明らかになった。サブカテゴリ―として、≪予測しながら今を支える≫、≪患者の予測に目を向ける≫、≪症状の変化をみながら予測する≫、≪患者と家族をつなぐ≫、≪日常のケアの延長としての ACP≫支援が明らかになった。

【チームとしての信頼をつなぎ、前に進む】では、チームとしての信頼関係を築き、チームをつなげられるようにチームに関わり、そのチームとしての関わりが患者や家族の支えになるように働きかけていた。また、チームは院内だけではなく、生活の場である地域との連携も築いていることが明らかになった。サブカテゴリ―として、≪チームをつなぐ≫、≪患者の意思を周囲につなぐ≫、≪地域とつながり、連携する≫関わりが明らかになった。

これらの結果から、熟練看護師の慢性呼吸器疾患患者の病期移行期における ACP の実践は、患者と関わりがあった時点から、【信頼関係を築きながら日常生活にこだわって聴く】ことで、生活や価値観を引き出し、病気の体験を紐解きながら関係性の構築をするためのことを積み重ね、【患者や家族が選択できる土台をつくる】といった途切れない関係性を構築し、支援へとつながっていた。また、看護師は患者の身体状態や症状の変化、心の揺らぎから【変化する状況を見極める】こと、【ACP 介入のタイミングをみはからう】ことができるよう、流動的で継続的な支援を行っていた。また、地域の多職種を含めた患者を中心とした人々と【チームとしての信頼

をつなぎ、前に進む】ことができるように調整し、看護師自身もチームメンバーのサポートを受けながら、患者や家族の ACP を支援できる環境を整えられるよう意識した関係性を築いていた。これらは、移行期の患者の変化を捉えるタイミングをつかむ重要なケアとなり、変化のプロセスとしての過程を捉えた関わりであった。

慢性疾患患者に対する ACP に含まれる構成要素の概念分析では、病状や予後への不安と受け入れや家族への思いなどについての情緒的な揺らぎがあることが明らかになっている（川原、2021）。熟練看護師を対象とした本研究においても患者の日常を捉え、価値観や希望を捉えているからこそ、移行期に生じる患者や家族の迷いや揺らぎに寄り添った関わりをしていた。これは、医療者としての病みの軌跡の予測とともに、患者や家族が捉える病みの軌跡や予想に合わせた意思決定を支援することにつながっていた。また、本研究で看護師は、地域や患者を取り囲む人々との調整を行っており、これは、その人の望む生活の場において、関わる人々がチームとしての信頼関係が築けるだけではなく、それぞれがサポートしあいながら、選択できる土台をつくるための支援となっており、看護師は状況や価値観を踏まえて生活を支援する視点から様々な調整を行っている存在であると考えられる。今後これらの結果を踏まえ、慢性呼吸器疾患患者に対する ACP 支援のあり方、意思決定支援に関するケアモデルについて具体化する研究につなげていく。

【引用文献】

Fukuchi F., Nishimura M., Ichinose M.et al.(2004) COPD in Japan: the Nippon COPD Epidemiology study, Respirology,9(4), 458-465, doi:10.1111/j.1440-1843.2004. 00637.x.

川原佳代（2021）慢性疾患患者に対するアドバンス・ケア・プランニングの概念分析，日本看護科学会誌，41，279‐285.

厚生労働省（2017）平成 29 年度人生の最終段階における医療に関する意識調査結果（確定版），https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/dl/saisyuiryo_a_h29.pdf，〔2023/05/01 閲覧〕.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計2件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 河田照絵
２．発表標題 慢性呼吸器疾患患者へのACPの実践における促進要因と阻害要因に関する文献検討
３．学会等名 第48回日本看護研究学会学術集会
４．発表年 2022年

１．発表者名 河田照絵
２．発表標題 慢性呼吸器疾患患者のACPを支援する熟練看護師の役割：病期移行期の支援に焦点を当てて
３．学会等名 第42回日本看護科学学会学術集会
４．発表年 2022年

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関